

地震、風水害自ら備え

県が定める「地域防災の日」の1日、県内各地で地域防災訓練が行われた。自主防災組織を中心に約4300団体、72万3千人超（速報値）が参加。従来の南海トラフ巨大地震対策に加え、近年多発する台風被害を想定した風水害対応も重点項目の一つに実践した。



地域防災訓練で大規模災害時を想定した給水体験を行う参加者
11日午前10時ごろ、焼津市の焼津北公園

県内で地域防災訓練

72万人参加 自助、共助へ

訓練テーマは「防災断水が発生し、住民自力（和）（輪）知活に大きな影響を恵（和）（輪）地域の自治会長の坂本清さん（和）（輪）」。地域防災の担い手として期待される中高生約7万5千人も自助と共助の意識を高めた。孤立集落対策として8市町でヘリコプターの着陸誘導も訓練した。

焼津市の焼津北公園では地震災害や風水害を想定し、住民ら約200人が水道が寸断された場合に備えた給水訓練に取り組んだ。市の給水車から非常時に避難所に配備する約500リットルの給水袋へ注水。住民は給水袋に取り付けた蛇口をひねり、持参したペットボトルなどに水を入れる手順を確認した。

10月の台風19号では熱海市などで大規模

訓練テーマは「防災断水が発生し、住民自力（和）（輪）知活に大きな影響を恵（和）（輪）地域の自治会長の坂本清さん（和）（輪）」。地域防災の担い手として期待される中高生約7万5千人も自助と共助の意識を高めた。孤立集落対策として8市町でヘリコプターの着陸誘導も訓練した。

焼津市の焼津北公園では地震災害や風水害を想定し、住民ら約200人が水道が寸断された場合に備えた給水訓練に取り組んだ。市の給水車から非常時に避難所に配備する約500リットルの給水袋へ注水。住民は給水袋に取り付けた蛇口をひねり、持参したペットボトルなどに水を入れる手順を確認した。

10月の台風19号では熱海市などで大規模

2019年12月2日朝刊

（社会部・伊藤龍太）

① 高校生が地域防災の担い手として協力する意義を考察せよ。

② 水道が寸断された場合、高校生として地域にどのように貢献できるか、考察せよ。

③ 独居世帯など高齢者への防災モデルを具体的に提言せよ。

年 組 名前

作問者：NIEアドバイザー 実石 克巳（静岡県立静岡高校 教諭） （高校／国語）

<参考> ①＝防災学、福祉学、地域行政学に関する問題、②＝地域行政学、福祉学に関する問題、③＝地域行政学、福祉学、防災学に関する問題